

衆議院9区補選、そして今思うこと

名前は自由や民主でも中身は少数で管理支配を進めるもの達がまたぞろ大阪9区で蠢きはじめています。

私たちはかつての社会党の頃から一貫して小選挙区制に反対してきた。その理由は①一人しか当選しない選挙では大政党が有利に働き、4割の得票で7割の議席につながる。議席に結びつかない膨大な死票を産み民意を反映しない。②しかも本来は他の政党支持者なのに勝てそうにないからと世論調査で一位、二位の政党候補に投票してしまい、小政党ではなく大政党ほど票が上積みされる。③その結果、少数者の意見や多様な国民の意見が反映できない、④候補者を決定する党首に逆らえなくなり、党内での活発な議論がなくなるというものであった。

しかも1994年、細川内閣が導入した際には厳しい政党要件をクリアしなければ選挙運動も制限され、立候補に必要な供託金も選挙区300万円、比例区600万円へ大幅に引き上げられた。小政党は立候補すら難しくなったのである。反対に大政党には破格の政党助成金（国会議員一人当たり年間4000万円）が与えられ、これでもかといわんばかりの大政党有利、小政党消滅の仕組みが作られた。100m競争で小政党には何回も予選を戦わせて疲労困憊にさせ、自分たち大政党は95mからスタートする。そんなエグツナイ選挙制度である。

私たちの指摘どおり、民主主義と程遠い選挙制度から民主政治が育つわけではなく、いまや戦前と同じく国家が国民を縛り付ける世の中だ。そしてこの選挙制度の改悪以降、大政党の離合集散以外に政党要件を満たした新政党が出現したことはない。

小政党や貧乏人を国会から排除し真っ向勝負から逃げまくる卑怯者が、口を開けば、やれ規制緩和だ、やれ自由競争だと説教する。ばかばかしい限りだ。だから私は大きな政党ほど有利な仕組みにおんぶに抱っここの自、公、民を批判するし、そこに所属する議員どもに好きにされてたまるかとの思いも人一倍強い。

さて残念な事に今回、社民党や市民派の一部議員が民主党候補を応援するそうである。一体何を考えているのか。「ブルータスお前もか」にならないかと私は案じている。

宣伝カーで「自民も民主も憲法改悪、愛国心教育、国家の為の国民作り、小政党をつぶすための比例区削減、防衛庁から防衛省昇格、安保自衛隊ではほとんど一緒、何も変わりません。私の考えとも合いません。ですから皆さんと同じように民主には不満もあります。しかし重箱の隅をつついて見ると少しだけましだと分かりました。自民が勝つたらもっと悪くなります。だから今回は民主を支持します」とでもいうのだろうか。

果物に例えれば、腐りかけの大玉である自民、民主を並べ、自民を食ったら入院になりますが、民主は一日寝れば直りますと薦めるようなものである。

そんな応援をされたら民主も困るだろう。本心は別にして、マイクを握れば自民に比べて民主が、原田に比べて大谷がいかに素晴らしいか、いかに自民と民主は違う政党かといわざるを得ない。それが選挙というものだ。

しかし今回の候補者は自、民だけではない。共産党もいる。いうまでもなく共産党は平和憲法、教育基本法の立場にある。小選挙区制に反対し、政党助成金反対を貫くためにもらえるお金ももらっていない。日米安保、イラク派兵にも反対で、社民、市民派と考えは近い。それなのになぜ共産党を支援しないのか。支援しないばかりか共産党の候補がいることにわざと触れていないようにも見える。なぜなら触れた途端に自民と民主の違いは限りなくゼロになるからだ。

一体、民主党のどこが共産党より、大谷のどこが藤木より評価できるのか。もし評価できるとして、それはマイクを持って応援しなければならぬほど評価できるものか、聞きたいものである。本心から民主党や大谷を応援するなら、社民や市民派を名乗る必要も無かろう。

苦渋か安直か、私の知るところではないが、民主支持は有権者に政治不信を煽り、悲しい思いをさせることにつながらないか。そこには最初から「小政党はダメ、相手にしない」という考えがある様に思えるからだ。確かにマスコミは必要以上にありもしない自民、民主の対決を煽る。選挙状況が主で政策は従だ。一方共産については立候補していることさえ伝えない時がある。失礼な話である。しかしこれこそ自民、民主が小選挙区を持ち込んだ狙いであり、「小政党はダメ」と思っているなら、それは小選挙区制に毒され、負けているからではないか。しかもそれは少数者排除にもつながっていく。少数者を切り捨て、多数派に乗っかる。小さな者が小さな者を切捨て、大きなものに媚びる。そのどこに正義があり、支配者、権力側の思考とどこが違うのか。この「小政党はダメ」の考えは自己否定そのものではないか。政党は自民、公明、民主だけでいい、私ら少数派が国政選挙を闘うなんて大それたことと白旗をあげるなら、世間はこれを負け犬根性というだろう。

有権者にとって気分の乗らない貧しい選択肢しかない選挙が続けば政治はますます閉塞し、国民の政治を見る目も退化していく。そんな中でマスコミにカネをつぎ込んでイメージだけの空っぽの世界、劇場政治が幅をきかす。これで支配階層は万々歳、まさに我が世の春である。

さらに私が危惧するのは一旦、民主を応援したら、社民や市民派が、今後同党への批判を避け、同化していくのではないかということである。当選すれば民主の一議員である。改憲、教育基本法改悪の一票を投じるだろう。また民主の政策は原発もダムも日の丸・君が代も賛成である。格差是正は口ばかり、労働法制の改悪にも手を染めてきた。

こんな民主の動向に今回応援する人たちは責任をもてるのだろうか。それとも「民主はおかしい」と批判するのだろうか。しかしそう言った途端に、「選挙で民主を応援しとったやん、自民と違う言うてたやん、今更なに言うの、あんたら信用できん」と見放されるだろう。民主が対決姿勢を装うのもせいぜい次の参院選まで。しかも民主は社民、共産の議席を奪う比例区削減を公約に掲げている。「社民や市民派など、後は野となれ山となれ、

消えてなくなればもっといい」が民主の本音だ。とすればそれを応援するのは自殺行為につながらないか。

政治改悪4法案以降強まった右傾化・戦争のできる国づくりの流れは民主によって加速こそすれ減速・ストップはありえない。民主党の国防族は自民党や日米の巨大軍需企業が中心となった「日米安全保障戦略会議」で総額6兆円に達するミサイル防衛を推進している。たとえ民主内に護憲派が存在したとしても単なるイチジクの葉っぱ、自民と同じ体質を左右するものではない。党首のさじ加減一つで公認が吹っ飛ぶのだから、護憲は選挙限定、国会では「改憲に一票」の議員に転じるのは目に見えている。靖国派は民主の教育基本法改悪案が気に入っているようで、民主が勝てば祝杯を挙げるだろう。財界にしても、ときどき民主が勝つ方が、国民の不満をガス抜きさせ、いいなりになる2大政党の定着には好都合とほくそえむだろう。

民主に思想信条を安売りせず、ここはじっと我慢して沈思黙考、自らの行動と大衆の思いにずれが生じていないか考えることである。私はこれだけひどい大政党有利の選挙制度の中で、共産党が一定の票を確保する方が自・公に、その背後の右翼的潮流に対して大きな打撃を与え、愚直にがんばっている人を励ますと思う。もちろん民主が沖縄知事選など各種選挙で自公と対決し、全野党の一員として努力するのであれば、それを拒む気はないし仲良くやっただらいいと思うが。

いうまでもないが私は共産党支持ではないし、社会党の闘う姿勢を貫いている新社会党に所属しており、共産党には言いたいことも山ほどある。その一つは改憲・戦争国家の流れに抗して来年の参議院選挙で日本共産党、社会民主党、市民派無所属まで含めた幅広い護憲平和勢力の結集に努力している人々に対して新社会党の応援団的存在だとか、国政選挙は政策の全面的な一致が必要だとして統一戦線にあまりにも消極的すぎることだ。これは敵方を利するだけで共産党にとっても大きなマイナスにならないか。

多くの国民は、また共産党の黨員、支持者そのものも、ともかく自・公・民の保守勢力に対抗し、有権者の選択肢になりうる護憲勢力を切望し、展望を持ち、わくわくとした気持ちで選挙戦を闘いたいと願っているのではないか。共産党だけで自公、民主と闘っても勝てないことは、これまでの国政選挙からも明らかだ。自民が、公明・創価学会まで引き入れて万全の体制を取り、民主が自民の支持勢力や非公認組にちょっかいを出しているのに、今後も共産党一党だけでいきますでは、勢力の先細りしかないではないか。なぜ今の戦争できる国づくりに反対する人々と共同戦線を組まないのか、社民やまじめな市民派との協力は党にとっても名誉なことではないか。悪化するばかりの状況の中で、党の内外は一日千秋の思いで元気の出る方針を待ち焦がれている。

置かれた立場は社民党も同様であり共産党に言いたいこととほとんど重なる。選挙において有権者が期待できる選択肢を作るための共同のテーブルに一刻も早くついて欲しいものである。

新社会、社民、共産、市民派の平和大連合で自・公政治をストップさせましょう。